第十六講　格助詞(1)

格助詞（が・の・を・に・へ・と・より・から・して・にて）

★接続

「　　」もしくは「　　形」に付く

★働き

格助詞が付いている語（上の語）が、他（下）の語とどんな関係になるかを示す。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「の」の用法

① **主格**（＝〜　　）

体言の…用言

（例）僧**の**言ふ。

② **連体（修飾）格**（＝〜　　）

体言の…体言

（例）月**の**光、風**の**音、…

③ **同格**（＝〜　　）

体言の……［　　形］〜〜〜。

（例）白き花**の**小さきあり。

いと清げなる僧**の**、黄なる地の袈裟着たるが来て、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④ **準体格**（＝〜　　　）

（例）四条大納言**の**はめでたく、…

⑤ **連用（修飾）格**（＝〜　　　）

●「　　」中の「の」で「〜　　　」と訳せる。

（例）山鳥の尾のしだり尾**の**ながながし夜（よ）を…

●「　　」の「の」　＊ただし、例の体言

（例）例**の**集まりぬ。

＊例の人

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「が」の用法

「の」と同じ。ただし、**「が」には「連用（修飾）格」の用法はない。**

（例）　我**が**庵（いほ）は…

いかなれば、四条大納言のはめでたく、兼久**が**は悪かるべきぞ。

※同格の「が」

連体形**が**……連体形〜〜〜。　→　各連体形の下に**同じ体言**が補えて文意が通じる。

（例）　いとやむごとなき際にはあらぬ**が**、すぐれて時めき給ふありけり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　次の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、後の中からそれぞれ選べ。

① 草の花はなでしこ。唐(から)のはさらなり、大和のはいとめでたし。
② いかなる人の御馬ぞ。
③ 瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ
④ 人の描かする仏もおはしけり。
⑤ 中頃、年高き尼の、さすがに人に知られて乞食(こつじき)しありくあり。

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　　②＝　　③＝　　④＝　　⑤＝

問二　「十六七ばかりなる小童(こわらは)のいとさかしきが侍りけり。」の傍線部と文法的に同じ用法のものを、次の中から選べ。

ア　男の着たりける狩衣(かりぎぬ)の裾(すそ)を切りて、歌を書きてやる。
イ　女の＊え得まじかりけるを、年をへて、夜這(よば)ひわたりける…
ウ　日暮るるほど、例の集まりぬ。
エ　業平の歌は、その心あまりて詞たらず。
オ　万葉集に入らぬ歌、みづからのをも奉らしめ給ひて、

注　え～まじかり＝～できない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　次の傍線部Ａ〜Ｅの「の」の意味・用法として、最も適切なものを後の中から一つ選べ。

官めきたる女房の[A]おとなしきが所作するあり。
よに御輿（みこし）の[B]さま気高くて、宝前へ入らせおはします。
太政入道殿の[C]左衛門督など申ししころの[D]面影も通ひ給ふ心地して…
「奈良の[E]方よりにてさぶらふ」と申す。

ア	Ａ　同格	Ｂ　連体修飾格	Ｃ　連体修飾格	Ｄ　主格	Ｅ　連体修飾格
イ	Ａ　同格	Ｂ　連体修飾格	Ｃ　主格	Ｄ　連体修飾格	Ｅ　連体修飾格
ウ	Ａ　連体修飾格	Ｂ　連体修飾格	Ｃ　主格	Ｄ　同格	Ｅ　主格
エ	Ａ　同格	Ｂ　連体修飾格	Ｃ　連体修飾格	Ｄ　連体修飾格	Ｅ　主格
オ	Ａ　連体修飾格	Ｂ　同格	Ｃ　主格	Ｄ　連体修飾格	Ｅ　連体修飾格

問四　次の傍線部と同じ用法として最も適当なものを、後の中から選べ。

かたくなる人の、その道知らぬは、そぞろに神のごとくに言へども、道知れる人は更に信もおこさず。

ア　おほくの工の心をつくしてみがきたて…
イ　老いたる尼の、行きつれたりけるが、道すがら「くさめくさめ」と言ひもてゆきければ…
ウ　此の国の博士どものかける物も、いにしへのあはれなる事おほかり。
エ　北の方の日ごろはそら知らずして、この夜中ばかり、「〜」とむつかり給ひつれば、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　次の傍線部ａ～ｃの「の」の用法として最も適当なものを、それぞれ後の中から一つずつ選べ。

こａの歌また、万葉集の第十二巻の歌なり。
「をかしくいはむとて、万葉集の歌ｂのさもありぬべきをいはせたるにもやあらむ」と…
大納言なりける人ｃの帝に*奉らむとて*かしづきける女を、…

注　奉らむ…ここでは「差し上げよう」の意味。
　　かしづく…大切に育てる。

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

ａ＝　　ｂ＝　　ｃ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　次の傍線部「が」と同じ用法の「が」を含む文を、後の中から選べ。

*僧坊ども多し。かの室(しつ)へ入(い)りて、「ここにて法師が様(やう)見給へ」と云ふ。

注　僧坊…寺院に付属して建てられている、僧侶が住む建物。

ア　親、はらからの中にても、思はるる思はれぬがあるぞいとわびしきや。

イ　この歌はある人のいはく、大友の黒主がなり。

ウ　めでたくは書きて候ふが、難少々候ふ。

エ　わが庵(いほ)は都のたつみしかぞ住む世を宇治山と人はいふなり

オ　いとやむごとなき際(きは)にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十六講

① 「よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、…」の傍線部の格助詞「の」と同じ用法の「の」を、次の中から一つ選べ。

ア　この姫君ののたまふこと

イ　男の童の、ものおぢせず、いふかひなきを召し寄せて、

ウ　箱の虫どもを取らせ、

エ　よろづのもとどもをたづねて、

② 次の傍線部の「の」の用法を、後の中からそれぞれ選べ（同じ記号を何度用いてもよい）。

a　怪（け）と人の申すことどもの、…

b　前（さき）の一条院の御即位の日、…

c　髪つきたるものの頭（かしら）の、血うちつきたるを見つけたりける、あさましく、…

d　かばかりのことを隠すべきかとて、…

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

a＝　　b＝　　c＝　　d＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　次の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、後の中から選べ。

世をすてたる人の<u>の</u>よろづに＊するすみなるが、＊ほだし多かる人の望みふかきを見て、むげに＊思ひくたすは＊ひがことなり。

注　するすみ…無一物の身。
　　ほだし多かる人…ここでは「家族が多い人」の意味。
　　思ひくたす…軽蔑する。
　　ひがこと…間違い。

ア　主格　　イ　同格　　ウ　連体修飾格　　エ　体言の代用

④　次の傍線部の用法として最も適当なものを、後の中からそれぞれ選べ。

青き織物の衣を着て、錦を頭にもかづき、足にもはいたる僧<u>の</u>[a]、別当とおぼしきが寄り来て、「…

女はこの男をと思ひつつ、親<u>の</u>[b]あはすれども聞かでなむありける。

惟喬の親王例<u>の</u>[c]狩しにおはします供に、馬の頭なるおきな仕うまつれり。

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

a＝　　b＝　　c＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　模範解答

問一　①エ　②イ　③オ　④ア　⑤ウ
問二　イ
問三　イ
問四　イ
問五　a イ　b ウ　c ア
問六　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十六講　模範解答・解説

〔解説〕

① 設問の傍線部「の」のすぐ下の「恐ろしげなる」が形容動詞の連体形である。そこに「の」の上の体言＝「虫」を入れて訳してみると、「たくさんの虫**で**、気味悪いような**虫**を取り集めて…」とおかしくないので同格（もしくは「の」から連体形までを省いて、「たくさんの虫を取り集めて」と確認しても良い）。選択肢アは主格「が」。イは「の」の下に、「いふかひなき」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言を入れて訳してみると、「男の童（＝男の子の召し使いを指すことが多い）**で**、物怖じをせず、身分が低い**男の童**を召し寄せて…」とおかしくないので、これが正解。ウ、エは連体格「の」。

② a 「体言（＝人）」が「用言（＝申す）」にかかっていくので、この「の」は主格。よって、正解はア。

b 「体言（＝即位）」が「体言（＝日）」にかかっていくので、この「の」は連体格。よって、正解はイ。

c 「の」の下に、「たる」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「頭」を入れて訳してみると、「髪がついているものの頭**で**、血がついている**頭**を見つけた…」とおかしくないので、同格。よって、正解はウ。

d 「かばかり」は副詞で「これほど・これくらい」という意味。「かばかり」は体言ではないが、「これくらいのこと」と「体言（＝こと）」にかかっていき、「の」のままでおかしくないので連体格。よって、正解はイ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「の」の下に、「なる」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「人」を入れて訳してみると、「出家した**人で**無一物の身である**人**が、家族が多い人が望みが深いことを見て、ひどく軽蔑するのは間違いである。」とおかしくないので、同格。よって、正解はイ。

④ａ「の」の下に、「おぼしき」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「僧」を入れて訳してみると、「錦を足にもはいている**僧で**、別当（＝僧官の一つ）と思われる**僧**が寄って来て…」とおかしくないので、同格。よって、正解はウ。

ｂ「体言（＝親）」が「用言（＝あはすれ（＝結婚させようとする））」にかかっていくので、この「の」は主格。よって、正解はア。ちなみに、この文は前回（第十五講）の「つつ」の例文と同じである。

ｃ「例の」の「の」で、「狩しにおはします（＝狩をしにいらっしゃる）」の用言にかかっていくので、この「の」は連用格。よって、正解はオ。

〔解答〕

①イ　②ａア　ｂイ　ｃウ　ｄイ　③イ　④ａウ　ｂア　ｃオ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。